

# 千葉歴史の散歩道

## 柏市域の湧水と氷河期のハンター

千葉県教育庁教育振興部文化財課文化財主事 **わたなべ れい**  
**渡邊 玲**



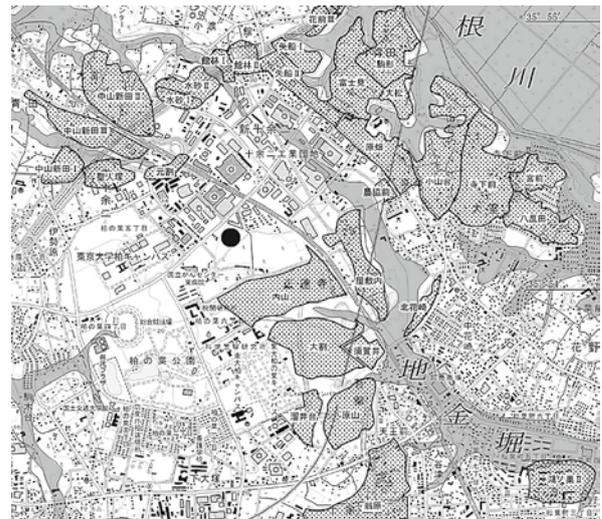
国道16号からさわやかちば県民プラザに行く道を進むと、柏の市街地に残された森の中に湧き水をたたえるこんぶくろ池と弁天池がある（地図の黒丸）。池の周りの自然公園にはズミやヌマガヤといった、かつての氷河期の名残とされる冷温帯性の植物が今も生育している。こうした湧水は開発で姿を変えながら市内各地に点在しており、明治時代の迅速測図で旧地形を確認すると、柏は地金堀の谷が入り組む現在とは異なる風景だったことがわかる（地図の薄いトーンが谷）。

ところで柏市域には、はるか昔3万年前の氷河期にこの地を訪れたハンターの足跡である、旧石器時代遺跡が数多く残されていることをご存知だろうか。特に近年はつくばエクスプレスの建設と周辺市街地の整備に伴う発掘調査の成果から、旧地形の谷を取り囲むように旧石器時代遺跡が存在していることが明らかになってきている（地図の濃いトーンが遺跡）。

こうした旧石器時代遺跡からは、当時の人々が生活の道具として使った石器が出土している。柏市域の旧石器で注目されるのは、石材の種類の豊富さである。群馬県利根川上流赤谷川の黒色頁岩や茨城県久慈川のメノウ、栃木県高原山の黒曜石、静岡県天城柏峠の黒曜石、遠くは信州の黒曜石や東北の硬質頁岩など、その産地は多岐に渡る。これは江戸時代の利根川東遷よりはるか昔、柏が、房総半島と現利根川対岸の北関東が陸路で繋がって

いた氷河期の交通の要所であり、水辺に集まる多様な生き物を求めて多くのハンター達が滞在したためと考えられる。

市街地化が進んだ現代でも、氷河期のハンターが見た風景に思いを馳せながら湧水や地形を巡ると、普段とは違った風景を楽しめるかもしれない。柏市域の旧石器時代遺跡から出土した実物の石器は、さわやかちば県民プラザで展示している。



赤谷川 久慈川 高原山 信州 天城柏峠 東北  
原山遺跡 富士見遺跡 小山台遺跡

柏市域の旧石器時代遺跡と石器

千葉教育 葉 (No. 666) 令和3年2月11日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 櫻井 比呂樹  
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204  
URL <http://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所 千葉市療育センター いずみの家  
〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3 TEL 043-216-2465